

アメリカ村の歴史

アメリカ村の歴史（1986年当時まで）

大阪・ミナミの心齋橋西側の地域、
正確に言うと道頓堀から長堀通の南北間、
御堂筋から四ツ橋筋の東西間に囲まれた地域が
「アメリカ村」と呼ばれて、もう10年以上経過するが、
誰が言い出したのかもわからないこの名前が
地名として定着するほど、
アメリカ村の存在感は小さくないのだろう。
元々、個人単位でアメリカへ古着や雑貨を買い付けに行き、
事務所ビルの2階、倉庫を手づくりで改装した所や、
自分の手でペンキを塗ったような場所に店を構えたところから、
どこからともなく「アメリカ村」と言われた。

なぜこの地域に、このような商業形態のまちが生まれたかを考えてみると、
まず第一に、大商業地域である心齋橋の周辺であることだ。
資本を持たない若い人間が歩む第一歩としては
高い心齋橋の近くの安い所が好都合であった。
第二の理由に、この地域には昭和38年（1963年）より一大アパレル産業であった
VANの本社があり、ファッションの可能性が潜在的にあった。
この二つの地域性が現在のアメリカ村を生む要因になったことは明白だ。
逆に言うとアメリカ村を生む土壌があったのだ。

このアメリカ村の草分けとして、「ループ」と「アワーハウス」という
二つのショップがかつてあった。
今や伝説と化し、その頃の、アメリカ村が一番アメリカ村らしかった
時代は遠くになりけりだが、
昭和44年（1969年）にオープンしたり「ループ」という喫茶店は
ファッション、デザイン、音楽、アートなどに関わる
クリエイティブな最先端人間の溜り場であり、
「アワーハウス」はアメリカ村第一号のアメリカの古着屋であった。

アメリカ村の歴史

この二つの店舗を始めとして、昭和50年（1975年）頃から
フロンティア精神溢れた若者たちが店舗を構えだした。

現在ではあちこちで見受けられるガレージセールの種類が、
早くもこの頃に出現していた。

それぞれの店にはその店を愛する若者がお客として集まり、
共通の感性を持っていた。

好きなモノをアメリカに買い付けに行き、

自分の気にいったスペースで、同次元の若者に売るという、

アメリカ村は「新しさ」に満ち溢れる「感性」のまちであった。

折からのサーファー・ブームとカウンター・カルチャーの波に乗り、

アメリカ村が第一期のピークを迎えたのは

昭和53～54年（1978年～1979年）であった。

しかし、サーファー・ブームが勢いを弱めた頃、

同時にアメリカ村の経済状態も悪化し、

閑古鳥が鳴くような寂しい場所となってきた。

アメリカ村はサーファー・ブームと共に終わってしまった、

と言われることもしばしばあった。

アメリカ村に見切りをつける店舗もある中で、

なんとかしなければという動きが始まった。

それが「アメリカ村ユニオン」であった。

四ツ橋筋沿いの喫茶店「パームス」の日隈萬里子さんを理事長に、

50名ほどの会員から成るこのアメリカ村ユニオンは、

商店街的活動のような営利目的団体でなく、

アメリカ村全体にもう一度活気を、と集まった有志から成る組織である。

このままではアメリカ村の灯が消えるという危機感から、

みんなで一緒にアメリカ村全体を盛り上げよう、という

アメリカ村を愛する人間の集まりであった。

その願いを込めて「アメリカ村ユニオン」は昭和57年（1982年）9月に結成され、

手始めにアメリカ村マップを作成し、

ミニFM局「ゴー・ゴー・ステーション」を設立し、

アメリカ村の歴史

同じく 11 月には「アメリカ村フェスティバル」と題し、三角公園を中心に数々のイベントを実施したり、御堂筋パレードに参加したりと、能動的な活動を展開した。

映面上映会やパフォーマンス・ショーは三角公園の新しい利用法を実践したとも言える。

これらお祭騒ぎを起こすと同時に、ユニオンは店主に路上ワゴンセールを呼び掛け、まさにアメリカ村挙げての「お祭」が自主的に開催されていった。

昭和 59 年 3 月（1984 年）には、イベントの場として定着していた三角公園が改装され、そのオープン記念のイベントが大阪市と大阪 21 世紀協会から

「周防町を美しくする会」というアメリカ村地元住民と商店主から成る組織に持ちかけられた。

週に一度、三角公園の清掃を行なったりと、着実な活動を続けてきた「周防町を美しくする会」は「アメリカ村ユニオン」と共同でこのイベントを進め、結果的には良い成果を収めた。

行政の「アメリカ村ユニークタウン宣言」への答えとしてアメリカ村は「アメリカ村カーニバル」というイベントを用意したのであった。

このイベントは、民間独自の活動を行政サイドが認めると共に、イベント型公園をアメリカ村の中心に建設した、全国でも珍しい官民共同の事業であったといえる。

改装前の三角公園はアメリカ村の中心、おへそであるのにも拘らず、うっそうと緑が生い茂り、立ち入るのをためらう程、危険な場所であった。

アメリカ村の歴史

- ※ループ 間寛平さん、白藤さん（音楽評論家）
- ※プガジャ
- ※パームス たっちゃん、トシくん、佐藤薫、多数の外タレ、カフェのビデオデッキ
ロックマガジンのイベント、デューク更家も働いていた。

- ※FAB MAB YMO
- ※バハマ INU、アークサラー
- ※ネスト・サルーン
- ※1978年 パームス開店
- ※1979年 広瀬ビルに大阪初の中古レコード専門店キングコング開店。
- ※1981年? ブラザービルでのキングコングのセールスイベントで、
ロックマガジンとスペース（中野氏）が参加。
- ※1982年 ホテル日航大阪 オープン（9/4）
アメリカ村ミニFM準備（10/30 マーキー谷口）
- ※1983年 キングコング下にフリースペース「フェイレイ」（～1984年）
（ビデオアート、ドクメンタ、ナム・ジュン・パイク、ドイツ表現主義映画、
SCREAMING MAD GEORGES/25、チルドレンズ・ミュージアム、など）
アートアート '83（萩原、ジョン、澁谷、関本、他）
マーケティングコンビナートの今井さん、ダルチザンの田垣さん
無印良品アメリカ村 オープン（10月）
黒田征太郎さんの壁画ペイント（藤井裕さんも）
レコードショップ「BAOBAB」、イタリアン・レストラン「タベルナキント」
- ※1984年 パームスの地下ディスコ閉店（1/28）
ユニークタウン宣言のイベントに吉本2丁目軍団出演（4/28）
（ダウタウン、トミーズ、ハイヒール、銀次・政二）
雑貨店「気分屋雑貨店」オープン（2/20）
エスニック音楽専門店「ラングーン」
バー「FUKU」（84年オープン？）
銭湯「清水湯」火事（1987年リニューアル・オープン）
- ※1985年 デプトストアでデプトラ（メロン、ショコラータ、ミュートビート）
「楽天食堂」オープン、アワーハウス夜逃げ
キクソティックバー
- ※1986年 三角公園で大阪ガスの販促イベント「クージーの人間歳時記」
レンタル・マンション「ルーミング心斎橋」
- ※1987年 スラッシュ&スケボーショップ「VIOLENT GRIND」
- ※1988年 インディーズ・レコードショップ「G i g a」
繁昌花形本舗
カフェレストラン「ハーレムクラブ」（元パームス 1F）
クラブ「ミスティーク」（RAND CAFEのあるビルの2F）

- ※90年代 FM802 ムーヴメント（リスナー像の調査など）